

こどうきょう 高速道路跨道橋の利用状況調査について

1. 調査の目的

西条市が管理する市道橋は約900橋と非常に多く、今後維持管理費の負担増が想定されます。そのため維持管理費の削減を図るため、橋りょうなど社会インフラ施設の集約化に取り組んでいます。

今回調査対象の跨道橋2橋は市道以外に属するもので、高速道路整備以前から公道として利用され、従前の機能を回復する目的として作られたものです。これら2橋を集約化に向けた検討をするうえで現在の利用状況を把握する必要があることから、現地へ案内看板を設け周知を行い、情報収集をしています。

2. 集約化の必要性

跨道橋の老朽化が進行している中、適切に維持管理を実施しないと高速道路利用者の人的被害や桁下への影響（第三者被害含む）を伴う落橋や倒壊等が発生するリスクがあることから、道路管理者には適切な管理が求められています。

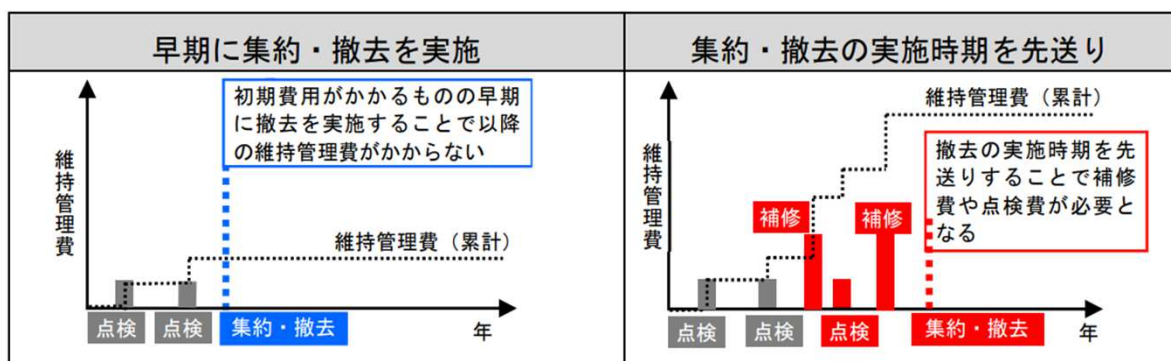
老朽化対策として充当できる財源確保が課題となっている厳しい財政状況の下、老朽化対策の選択肢の一つとして地域の実情や利用状況の変化に応じ、施設の集約化を検討することが、長期的な視点で見た際の有効的な手段となります。

3. 集約化に伴うメリット

跨道橋の集約化を実施することにより、初期費用として一時的な負担が生じるものの、長期的な視点で見ると、維持管理橋梁数が削減され、将来の点検費、補修費等の維持管理費用を縮減することができます。

また、高速道路管理者は、より一層安全性の高い高速道路を提供するために地方自治体等が管理する「老朽化した高速道路跨道橋(道路法外)の撤去事業に関する助成制度（令和3年2月）」を設けています。

本市においても助成制度を活用したいと考えており、迂回路がある橋については集約化に向けた検討をしていきます。



国土交通省 道路局
「道路橋の集約・撤去事例集」より出典